

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

各務原市地域公共交通会議

平成 2 5 年 1 1 月 2 5 日設置

令和 6 年 3 月 各務原市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和 6 年 4 月～令和 1 3 年 3 月）
令和 7 年 4 月 各務原市地域公共交通計画変更
令和 8 年 4 月 各務原市地域公共交通計画変更

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

■各務原市の地域特性

- ・人口：143,027人、高齢化率29.0%（令和8年4月1日現在） ▶人口減少、高齢化が進行
- ・面積：87.81km² ▶市域の多くが平地。北部および東部丘陵地に高齢化率の高い住宅団地

■各務原市地域公共交通計画2024～2030

計画期間 令和6年4月～令和13年3月

交通の将来像

公共交通を使って誰もが住み続けられるまち

基本理念

皆で支える持続可能な公共交通

基本方針

- 1 各務原市が目指す交通体系の姿を皆で共有し、三位一体の取り組みを進めます
- 2 鉄道を軸とした多様な公共交通の接続により、移動の選択肢を増やします
- 3 メインターゲットを明確にし、ターゲットに合わせた取り組みを推進します
- 4 将来を見据えた持続可能な公共交通の供給体制を確保・維持します

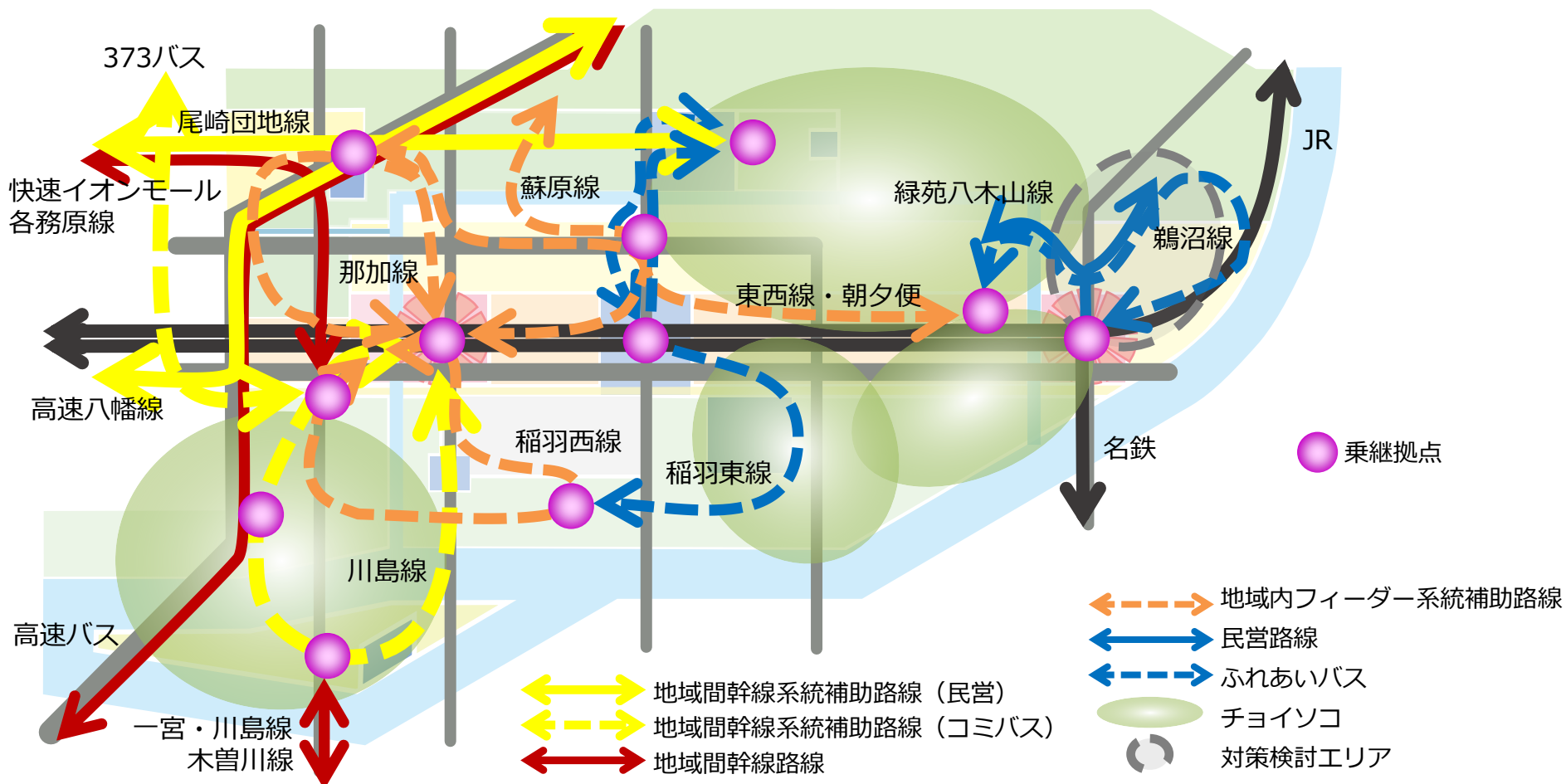
計画の目標

- 1 まちづくりと連動した公共交通ネットワークを構築します
- 2 乗り継ぎ利便性を向上させます
- 3 ターゲットに合わせた公共交通をデザインします
- 4 公共交通の確保・維持に向け、利用者を増やし、供給体制を確立します

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

■ 各務原市の公共交通ネットワーク

- ・ 鉄道を広域的な都市間の移動軸、市内における東西の移動軸とした公共交通網
- ・ 都市間の移動軸として、日常的な移動需要に対応し幹線系統バスが運行
- ・ 住宅団地や集落から、地域の生活拠点（公共施設、医療施設、商業施設等）や幹線交通までのアクセスを確保するコミュニティバス・デマンド交通を運行
- ・ 市内全域で、路線バスやデマンド交通で対応できない個人単位の需要を乗用タクシーがカバー



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>★コミュニティバス 「ふれあいバス」等の運行 (フィーダー補助システムあり)</p> 	<p>ふれあいバスの運行を継続。鵜沼線、那加線、稲羽西線、稲羽東線、川島線、蘇原線、東西線、東西線朝夕便(8路線)、テクノライナー</p>	<p>2路線を除き利用者が増加した。全体では前年から6.0%増。 (R6年度 271,404人 → R7年度287,555人)</p>	<p>稲羽西線と稲羽東線の接続を改善するため、利用者の意見を反映し、令和8年4月に改正。4月に運行を開始した「テクノライナー」は利用が伸び悩んでおり、路線維持のための対応を検討している。</p>
<p>デマンド交通「チョイソコかかみがはら」の運行</p>	<p>鵜沼南エリア①、鵜沼南エリア②、須衛・各務・八木山エリアの3エリアで運行を継続。</p>	<p>前年から利用者16.7%増加した。 (R6年度 12,769人 → R7年度14,906人)</p>	<p>運行開始から、会員数、利用者数が年々増加している。通院や買い物に利用されており、特に高齢層が日常的な移動手段として利用している。</p>
<p>チョイソコ広域連携事業「チョイソコかわしま」の運行</p>	<p>民間事業者と共に、岐阜市の一部と笠松町を走る「チョイソコカラタン」と乗り継ぎができる「チョイソコかわしま」の運行を継続。</p>	<p>令和6年10月に運行開始。 (R6年度 232人 → R7年度上半期379人、下半期397人)</p>	<p>他に使える交通手段がない方、車を持っていない方が主に利用しており、満足度は84.6%と高い。引き続き利用促進に取り組み、運行を維持する。</p>
<p>地域内交通実証事業「緑苑八木山線」と「緑苑団地デマンド便」の運行</p> 	<p>名鉄グループ3社と市が、鵜沼地域の持続可能な公共交通サービスの導入に取り組む。時間帯による移動需要に合わせた路線バスとデマンドタクシーの組み合わせによる運行を令和7年4月1日に開始。</p>	<p>当初想定より利用者が少なく、持続的な運行のためには運行方法等の見直しが必要となったため、緑苑団地デマンド便は令和8年4月から半年間運行を休止。 (緑苑八木山線14,865人、デマンド便445人)</p>	<p>継続できる運行方法を検討し、8月の緑苑団地デマンド便再開を目指して調整中。実証後も引き続き運行していくため、地域として公共交通の維持に取り組むことができるか、地域公共交通について考える会を立ち上げて検討する。</p>

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>ふれあいバス等懇談会</p>  <p>ふれあいバスなどの運行について、ご意見をお聞かせください</p> <p>期間 10月17日～31日 (19日、25日、26日を除く)</p> <p>開催時間・場所などの詳細はこちら</p>	<p>各地域をまわり、市民と公共交通の現状や方針を共有し、意見交換を行う。今年度は、免許返納への準備について高齢者に伝える取組をしている市民の方に、免許がある元気なうちに公共交通を利用し、返納後の生活をイメージすることの大切さを話していただいた。</p>	<p>市内11会場で全12回開催。(参加者133人)</p> 	<p>平成25年から毎年実施しており、公共交通について地域の方と直接話す場として定着しており、今後も実施していく。公共交通を利用する同じ立場の方の体験に基づくお話には多くの方が関心を寄せており、参加者同士の意見のやりとりも行われた。</p>
<p>公共交通イベントの実施</p> 	<p>さまざまな主体と連携した利用促進施策の、交通行動の変容を促すための取り組みとして、関心喚起と利用促進を図るため公共交通に関連した5つの体験型イベントを実施。</p>	<p>①JALリモート工場見学(111人)、②JAL工場見学日帰りツアー(21人)、③CCNet岐阜局でニュース番組を作ろう(16人)、④路線バスに乗ってデイキャンプへ行こう(25人)、⑤JAL現役CAが教えるマナー&ヘアメイク講座(22人)</p>	<p>交通事業者やスポンサー、関係者の協力を得て、公共交通に対する意識の醸成を図った。申込が定員を超えるイベントもあり、イベント内容への参加者の評価は高かった。公共交通への関心を高め、利用のきっかけとなるよう、今後もより効果的な事業内容を検討して実施していく。</p>
<p>チョイソコお出かけイベントの開催</p>	<p>高齢者等のお出かけを促すイベントを開催。</p>	<p>毎月1回開催。(参加者105人)</p>	<p>参加者が少ない月もあるため、実施方法や内容を検討する。</p>
<p>乗り継ぎ拠点の整備</p>	<p>名鉄・三柿野駅前の歩道を拡幅し、バス停付近にガードパイプを設置した。</p>	<p>改札を出てから歩行者が安全に通行できるようになり、バスを待つスペースも確保。</p>	<p>今後も鉄道駅周辺の整備とともに、バスの乗降環境を整えていく。</p> 

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

成果指標 目標値（2030年）		達成状況							
		2023	2024	2025	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
1.市内公共交通の利用者数	1,524 万人以上	1,607 万人	1,650 万人	** 万人					
2.公共交通に対する不満割合	22% 未満	22%	-	31.1 %					
3.乗継利便性の向上（拠点の整備）	4件	1件	1件	1件					
4.多様な主体が連携した利用促進の取組件数	6件	5件	4件	6件					

【考察】

- ふれあいバス、チョイソコの利用者数は、運行内容の見直し等により年々増加している。路線バスは廃止や減便があり減少が続く。タクシーは減少傾向にあったが、増加に転じた。
- 公共交通に不満をもつ方が31.1%に増加した。他地区より交通に不便を感じている稲羽・川島地区の不満割合が高い。また、主たる利用交通手段にかかわらず、不満感が存在していることがうかがえる。
- 三柿野駅停留所の乗降環境を整備したことで、駅改札を出てから歩道を安全に歩けるようになった。
- 公共交通への関心喚起と利用促進に向けたイベントを実施した。交通事業者やスポンサー企業の協力を得て魅力ある体験を用意したことで、子どもから大人まで多くの方の参加があった。

■ ふれあいバス・チョイソコかかみがはらの実績（令和6年10月～R7年9月）

評価 A：サービス維持 B：路線継続 C：路線見直しの必要性有

種別	路線	利用者数（前年比）	人	補助	評価指標	評価
ふれあいバス	鵜沼線	59,849	(+11,091)	県補助		A
	那加線	55,420	(+6,201)	フィーダー	29,396人/年	A
	稲羽線（10～3月）	44,244	(-1,407)	県補助		-
	稲羽西線（4～9月）			フィーダー・県補助	40,366人/年	C
	稲羽東線（4～9月）			県補助		C
	川島線	45,313	(+551)	地域間幹線		A
	蘇原線	59,705	(+3,094)	フィーダー	51,277人/年	A
	東西線	12,156	(-1,734)	フィーダー・県補助	17,388人/年	B
	東西線朝夕便	1,218	(-347)			B
チョイソコかかみがはら	13,540	(+1,565)			A	
合計	291,445	(+19,014)				

【考察】

ふれあいバスは、鵜沼線、那加線、蘇原線が1時間に1便のパターンダイヤとなっていることで、ふれあいバス同士や鉄道との乗り継ぎの利便性が向上している。鵜沼線の利用者数増加は、路線バスの減便も一因と考えられる。東西線は運行本数が減ったこともあり利用者数が減少したが、総合病院への通院や高校への通学などの需要があるため、引き続き路線の維持が求められる。稲羽線は令和7年4月に稲羽西線と稲羽東線に分かれて利用者が減少した。稲羽西線と稲羽東線をまたぐ利用が想定より多く、乗り継ぎがスムーズにできないことが利用の減少につながったと考えられるため、乗継時間を改善するための見直しが必要。

■ 地域公共交通計画の確認指標（令和7年度）

手段別・路線別利用者数 ※2022年度の「チョイソコかかみがはら」利用者数は「ふれあいタクシー」利用者を含む

種別	路線	2022年度 利用者数（人） ※現況値	2023年度 利用者数（人）	2024年度 利用者数（人）	2025年度 利用者数（人）	増減率 （%）
ふれあいバス	鶉沼線	42,328	46,331	52,845	65,481	23.9
	那加線	29,396	39,667	52,546	56,993	8.5
	稲羽線	40,366	44,380	48,010	—	—
	稲羽西線	—	—	—	13,370	—
	稲羽東線	—	—	—	25,171	—
	川島線	41,548	42,780	44,850	49,331	10.0
	蘇原線	51,277	54,162	58,277	61,937	6.3
	東西線	17,388	17,382	13,605	10,603	-22.1
	東西線朝夕便	2,353	2,190	1,271	1,319	3.8
テクノライナー	—	—	—	3,350	—	
ふれあいバス等合計	224,656	246,892	271,404	287,555	6.0	
チョイソコかかみがはら	7,263	10,011	12,769	14,906	16.7	
チョイソコかわしま	—	—	232	776	234.5	
鉄道(JR・名鉄)	13,981,800	14,764,300	15,229,300			
路線バス(名鉄バス・岐阜バス)	751,900	790,900	738,000	688,468	-6.7	
タクシー(市内5社)	274,700	259,800	246,600	272,228	10.4	
合計	1,524万人	1,607万人	1,650万人			

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■ 地域公共交通計画の確認指標（令和7年度）

利用者1人あたり公的負担額

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
ふれあいバス	731	739	763	815					
チョイソコかかみがはら	3,949	3,202	3,375	3,235					

● 1人あたり公的負担額 = 運行経費 - (運賃収入 + 協賛金※) ÷ 利用者数

利用者1人あたり市負担額

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
ふれあいバス	626	650	663	747					
チョイソコかかみがはら	3,949	3,202	3,375	3,235					

● 1人あたり市負担額 = 運行経費 - (運賃収入 + 協賛金※ + 国補助金 + 県補助金) ÷ 利用者数

※協賛金はチョイソコのみ

【考察】

・ふれあいバスの利用者は増加傾向にある。特に鶉沼線の利用が大きく増加した要因の一つは、路線バス「緑苑八木山線」が昼間時間帯に減便し、代わって運行を開始した「緑苑団地デマンド便」の利用方法がわかりづらく、予約の必要がないふれあいバスを利用するようになった方がいるためと考えられる。東西線は運行区間が短い系統が増え本数が減ったため利用者が減少。稲羽西線と稲羽東線の接続が不便となったため2路線の合計が前年の稲羽線より減少したが、全体としては利用が増えている。

・利用者が増え運賃収入が増加したが、運行経費が上昇しており、公的負担額が増えている。

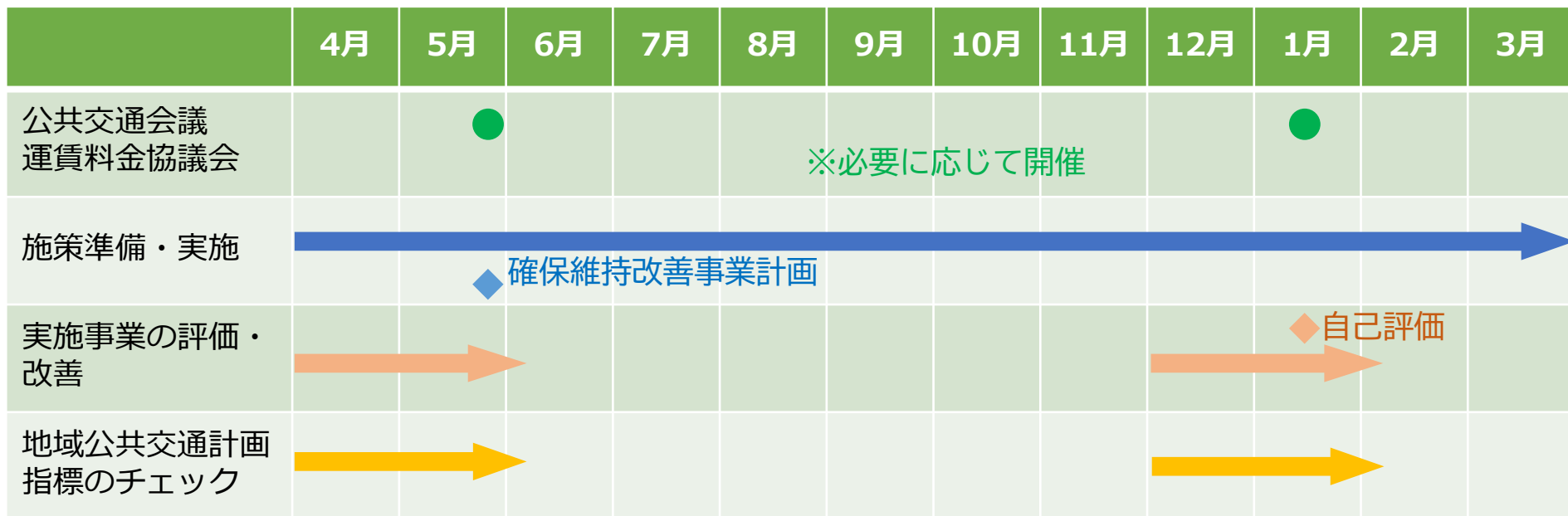
計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>市内公共交通の利用者数は増加傾向にあり、<u>目標値を上回っている。</u></p>	<p>人口減少、高齢化が進み、運転士不足が深刻化する中、公共交通は交通事業者だけでなく行政や地域住民など関係者が協力して維持していかなければならない。地域公共交通会議での意見交換、協議のほか、交通事業者とのワーキンググループやチョイソコ研究会、地域内交通実証事業の関係者との情報共有の場を設け、公共交通の確保に向けて検討、取り組みを進めていく。</p> <p>令和7年4月からは交通事業者（鉄道・バス・タクシー）と市が協力して地域の移動手段を維持する実証を始めたが、今後はここに、バスを利用しない方も含めた地域住民も加えてそのあり方を議論していく。</p> <p>ふれあいバスやチョイソコの運行に関しては、まちづくり施策との連動を図り、ふれあいバス等懇談会での意見や自治会要望などで把握するニーズ、利用実績のデータなどから移動の実態をふまえ、限られたリソース（予算・運転士）を効率よく配分し、地域の実情に合わせた公共交通を設定していく。</p>
<p>公共交通に対する不満割合は31.1%となり、未達成。</p>	<p>路線バスとふれあいバスは、運行本数と最終の時間に対して不満を感じている割合が高い。多くの方が満足するだけの運行本数を確保し、運行時間を延ばすことは難しいが、時刻表や乗り継ぎ情報、乗り継ぎの利便性、待合環境など、対応できる内容について可能な限り改善に取り組み、特定の交通手段のみではなく、全ての交通手段において不満割合を減らす努力をしていく。</p>
<p>乗継拠点の整備は計画期間中に4件を目標とし、現在までに3件実施した。</p>	<p>乗継拠点となる駅や施設の停留所の乗降環境を整え、安全を確保し、乗り継ぎにかかる負担を低減するほか、さまざまな目的地へ移動できる公共交通ネットワークを確保し、公共交通での移動の選択肢を増やす。</p>
<p>多様な主体が連携した利用促進の取り組み件数は目標を超えた。</p>	<p>各者での取り組みに加えて、多様な主体が連携することで、より効果的な利用促進事業を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物や通院、観光など、目的に合わせて、商業施設や観光施設などと連携 ・ 住民や住民主体の団体などと連携し、公共交通の紹介や利用をPR ・ 公共交通に触れる機会の提供、公共交通利用を促進するイベントの実施

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	乗継拠点となる駅や停留所の乗降環境を整えられ、地域住民や観光客等、だれもが移動しやすい公共交通ネットワークの構築が図られることを期待します。	乗り継ぎポイントは、駅のほか、長くなる待ち時間でも快適に過ごせるよう商業施設に設定し、バスの乗り入れと安全な乗降環境の提供に協力していただいている。	駅周辺的环境整備に合わせて、乗り継ぎ環境も整えていく。また、利用者や自治会からの意見を聴き、安全に乗降できるよう改善し、乗り継ぎ方法やバスの乗り場など、分かりやすい案内に努める。
	交通事業者や商業施設等との連携など、今後も多様な主体と連携を図るとともに、公共交通の利用促進や関心喚起につながる取組が継続されることを期待します。	令和7年度から、交通事業者や地域の企業にもご協力いただき、将来利用者となる小中学生や若い世代、普段公共交通を利用しない方も公共交通に関心を持ち、利用につながるイベントを実施。	今後も、さまざまな主体と連携し、公共交通を利用する層を増やし、移動手段の一つとして公共交通を選択してもらえるよう、関心喚起につながる効果的な内容を検討して実施し、高齢者の外出を促す取り組みも継続する。
前々回	交通以外の分野(教育・医療・介護など)も含めた地域の多様な関係者と協議しながら、地域に合った適材適所の交通サービスの実現に向けて、より効果的な利用促進事業を実施されることを期待します。	地域に合った適材適所の交通サービスの実現に向けて、交通事業者と情報を共有して、新たな運行方法による公共交通の維持に取り組んでいる。	公共交通を利用する層を増やすため、交通以外の分野も含めた多様な関係者とも連携しながら、より効果的な利用促進事業を実施していく。
	公共交通の利用者は増加傾向にありますが、この傾向が継続されるよう、近隣自治体、運行事業者、地域と連携して、利便性向上に繋がる取組を推進されることを期待します。	チョイソコお出かけイベントや利用相談会、高校への通学利用の啓発、1日乗車券など、さまざまな主体と連携した利用促進施策に取り組んでいる。	自身での自家用車による移動が難しい方だけでなく、自家用車で移動できる方からも、公共交通が移動手段の一つとして選択されるよう、効果的な事業実施に努める。

※前回：令和8年3月27日、前々回：令和7年3月27日

〈年間単位の進捗管理、評価スケジュール〉



〈協議会の実施状況〉

第45回協議会（令和7年度第1回） 令和7年5月29日

主な議題：事業報告及び決算、事業計画及び予算、ふれあいバスの改正、地域公共交通確保維持改善事業計画
令和6年度地域公共交通計画の個別施策の進捗状況および 確認指標の評価

第46回協議会（令和7年度第2回） 令和7年8月19日（書面決議）

主な議題：ふれあいバスの改正について

第47回協議会（令和7年度第3回） 令和8年1月

主な議題：ふれあいバス等の改正、緑苑団地デマンド便の休止、地域公共交通計画の変更
地域公共交通確保維持改善事業の自己評価及び地域公共交通計画の評価結果